

モデル指導案

対象 ▶ 小学校高学年～中学校3年生

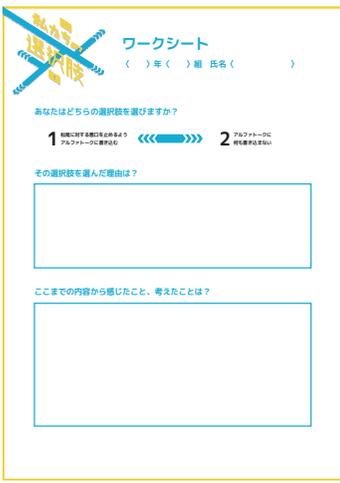
時間 ▶ 45分～50分、1コマ

活用場面 ▶ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間

〈 ねらい 〉

- 1 ▶ いじめの問題を早期に解決するためには、被害者・加害者以外の児童生徒が観衆・傍観者の立場にとどまらず、被害者や加害者に声をかけたり、いじめが行われている雰囲気を変えたり、誰かに相談したりといった、なんらかの行動をとることが重要だということを理解する。
- 2 ▶ 一人一人がいじめを止める行動をとれるかどうかにはクラスの雰囲気が関わっていることを理解し、一人一人の日常の態度がいじめの予防や解決に関係していることを理解する。
- 3 ▶ 特にネットいじめにおいては、教師や保護者が直接いじめの状況に気づくことが難しいこと、文字だけのコミュニケーションにおいて雰囲気を変えることが難しいことを踏まえ、工夫していじめを止める行動がとれるようになる。

時配	●学習活動 発問	○指導上の留意点、★使用教材
15分	<h3>1. いじめへの対応について考える</h3> <p>●動画1（約11分、「悪口をやめるよう書き込みをする」か「何も書き込まない」かの選択まで）を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none">○導入に時間をかけず、すぐに動画を流す。★映像教材と映像再生機器（PC、DVDプレーヤー、大型テレビ、プロジェクター、スピーカー等）
10分	<p>みなさんが光（ヒカリ）さんの立場だったら、選択肢1と選択肢2のどちらを選びますか。</p> <p>予想される回答</p> <p>松尾が悪いのだから何もしなくてよい、書いても林のように無視されるだけ、自分がいじめの対象となるかもしれない、松尾の態度が悪くてもいじめられてよいわけではない、林だけでなく自分が発言することでわかってくれる人が増えるかもしれない、等。（発言内容や話し合いの様子に当該クラスの雰囲気が表れると考えられる。）</p>	<ul style="list-style-type: none">○個人の考えをワークシートに記入する。★ワークシート ↓○どちらの選択肢をとるか挙手させ、人数を板書する。○近くの席の者どうし、意見交換をする。○時間に余裕があれば数名に意見を口頭で発表させ（ランダム指名を推奨）、選んだ選択肢ごとに要点を板書する。★抽選アプリ(ランダム指名) ↓（アプリの使用方法はP6-7を参照）○それぞれの選択肢を選んだ人数の割合がクラスの雰囲気を表していること、確率によって次の展開が決まることを理解させる。★抽選アプリ(選択肢抽選) ↓
5分	<p>●動画2（約1分）を視聴する。</p> <p>●抽選方法について確認し、抽選アプリで抽選を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none">○児童生徒のつぶやきを適宜拾いつつ、対話的に進行する。

時配	●学習活動 発問	○指導上の留意点、★使用教材
10分	<h2>2. 選択の結果を振り返り、考える</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● 抽選の結果に従い、動画3（選択肢1）もしくは動画4（選択肢2）を視聴する（動画は各約1分）。視聴後は児童生徒の様子を見て、何か言いたそうな者がいれば発言してもらおう。 ● もう一方の選択肢も見たいか確認し、意思を確認したうえでもう一方の選択肢も視聴する。（見たいという者が全くないなければ視聴する必要はない。） <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>（少し児童生徒の様子を見てから）ここまでの内容から感じたことや考えたことをワークシートに書いてください。</p> </div> <p>予想される回答</p> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p>何もしないと後悔しそう、選択肢1を選んでよかった、こんなにうまくいかないと思う、何を書いたのか知りたい、松尾が自分で解決すべきだと思う、誰かが助けってくれればいい、等。（選択肢1で光が何を書いたかを動画で描写していないことについて、何を書いたらいじめが止まるのかを考えさせてもよい。）</p> </div>	<p>○ 個人の考えをワークシートに記入する。 ★ ワークシート </p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <p>○ 時間に余裕があれば近くの席の者どうし、書いたことを紹介させる。</p> <p>○ 時間に余裕があれば数名に意見を口頭で発表させる（ランダム指名を推奨）。余裕があれば、要点を板書する。</p>
5分	<h2>3. 解説を聞く</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● 動画5（約3分）を視聴する。 ● （時間があれば）授業の感想を発表する。 	<p>○ 一人一人がいじめを止める行動をとれるかどうかにはクラスの雰囲気関わっていること、一人一人の日常の態度がいじめの予防や解決に関係していることを理解させる。</p>
5分	<h2>4. 報告や相談の方法を知る</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● 傍観者から仲裁者になる方法として、相談や報告窓口など、行動するための方法を伝える。 ● (STOPit導入校の場合)匿名報告・相談アプリ「STOPit」の概要と使用方法の説明を行う。 	<p>○ 各都道府県や市町村が設けている相談窓口を紹介する他、直接教員に伝えるなど、子どもたちが工夫していじめを止める行動がとれるための手段を伝える。</p> <p>★ 電話相談窓口が記載された資料（P14参照）</p> <p>★ STOPit説明書及びSTOPit利用方法動画 </p>

 ワークシート、抽選アプリ、STOPit説明書、STOPit利用方法動画は、「私たちの選択肢」専用ページ (<http://www.stopit.jp/workshop>)からダウンロードください。